

COMPANY NOW

ホームネットワーク工事の総合窓口として ICT部を立上げ

株式会社つうけん



平成22年10月にコムシスホールディングス株式会社との経営統合により、対象地域、事業分野等について両社の強みを活かした広範囲な事業展開と経営資源の連携によるシナジーの最大化を追求し、グループとしての成長戦略を強力に推進することによって企業価値の一層の向上を図っております。

その一環として昨年7月、ネットワーク業務を日本コムシス株式会社へ移管、ICT部の新設など将来を見据えて事業再編を実施しました。

本稿では、ホームネットワーク工事の総合窓口として立ち上げたICT部の業務内容などについてご紹介します。

1. はじめに

近年、宅内機器のIP化やホームネットワーク化に伴い、従来のサービスオーダー工事スキームでは対応できないホームネットワーク工事や、フレッツ光・通信機器販売については、主にNTTグループ発注の電気通信設備工事を手がけるテレコムエンジニアリング（以下TEGと表現）事業本部の営業部・第2営業部門が担当してきました。しかし、コムシスグループとの事業再編に伴う組織変更と電気通信事業法の改正による機能分離を明確にするために、平成24年7月にフレッツ光・情報通信機器販売やホームネットワーク工事、NCCからの受注案件等を担う総合窓口「ICT（Information and Communication Technology）部」を立ち上げました。

2. ICT部の社内での位置づけ

ICT部は組織的にはTEG事業本部に属していますが、旧第2営業部門の業務と旧ネットワーク部で実施していた一部業務（NCCの所内系通信設備構築業務）を取り込み、ICT部として独立しました（図1）。

3. ICT部の受注先と主な案件

受注先としては大きく分けて、以下のとおりです。

- (1)NTTグループ
- (2)他通建会社等
- (3)NTT様以外の通信キャリア(NCC)

通信機器特約店等の販売系業務と、ホームネットワーク系工事・保守、現地調査業務、一般市場案件（主にNTT東日本一北海道 法人営業部様受注）の設備構築・保守、NCC設備構築・保守に大きく分類できます。

当社の業務エリアである北海道エリアと神奈川県川崎エリアを対象にし

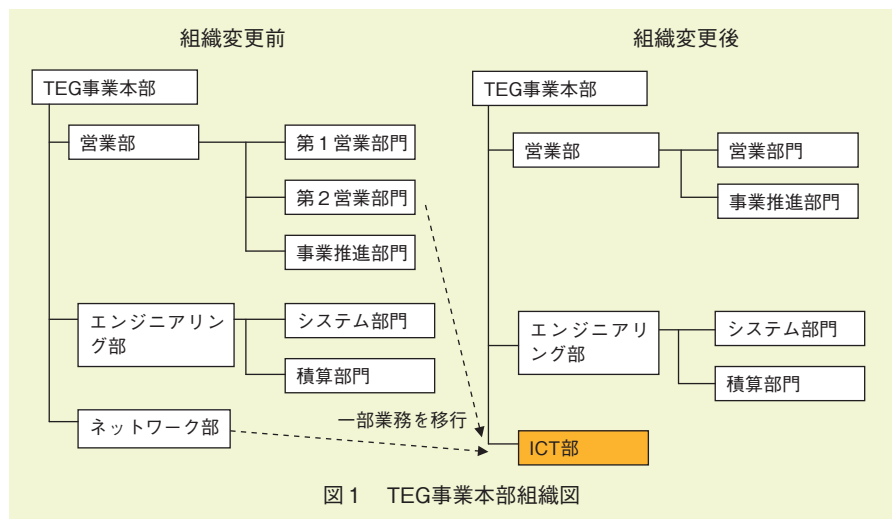
て、支店網をフルに活用して工事を実施しています（図2）。

3-1 販売系業務の主な業務

■特約店「情報機器・フレッツ光」販売

NTTの情報機器特約店として約40社のフランチャイズ店（FC）を抱え、電話機、ビジネスホン、FAX、ルータ等の情報機器の販売を行っています。

FC店の中でも日本最北利尻島のNTTビル内に拠点を構える(有)テレネット利尻様（図3）は、サービス総合工事・設備運營業務を担っていることから、地域の皆様からの信頼も厚くサプライ商品を含む情報機器の販売に



を実施しています。

当社の得意分野の通信インフラ構築などについて提案を行い、北海道エリアをカバーしているメリットや、電気通信設備工事業者としての実績・ノウハウを活かすことができる案件に幅広く対応しています。

いくつか事例をご紹介します。

(1) 密漁監視カメラシステム用インフラの光ケーブル敷設工事

当該自治体はIRU*で構築した光インフラ設備の有効活用として、主力産業である「海の資源保護」を主眼とした「密漁監視カメラ」を自治体全域に設置することに伴い、光ケーブル敷設（図6 赤い部分：地下からの立上げおよび地下に敷設）を受注し、設計～施工までを実施しました。

施工区間は、夏は「海水浴には格好の場所」ですが、冬には北海道でも有数の積雪量を誇る地域で、本工事は冬期間の厳しい気象条件のもとでの施工であり、マンホールひとつ開閉するにしても、降雪のためその場所（位置）が特定できず、やっとのことで探し当てたマンホールも「マンホール除雪作業」→「マンホール内の水汲み作業」と普段の倍以上の作業量ではありましたが、無事故で完了することができました。

(2) JA様FAXシステムの端末更改と保守

従来システムの更改に伴い、平成24年度は全道で11組合、約2,000台のFAX端末更改工事を実施しました。

JAの各組合員様宅に設置されてい

*IRU（Indefeasible Right of User）とは、関係当事者の合意がなければ、破棄または終了ができない回線使用権のことで、自治体などが保有する光ファイバ等についてIRUの設定を受け、伝送路設備として借り、自社の高速インターネット接続サービスなどを希望者に提供する。



写真1 座学研修と技術講習会のイメージ

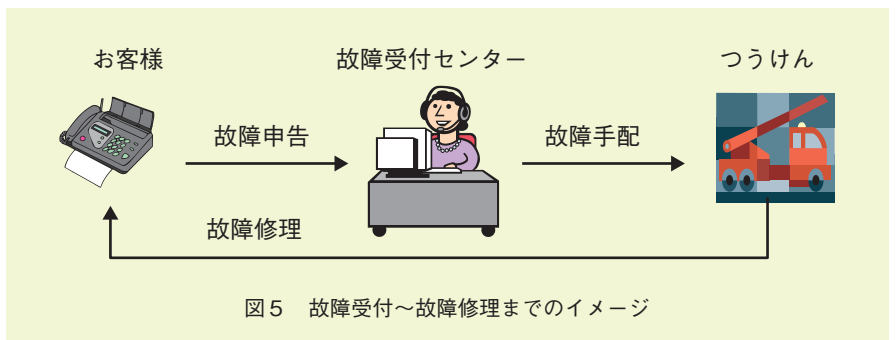


図5 故障受付～故障修理までのイメージ

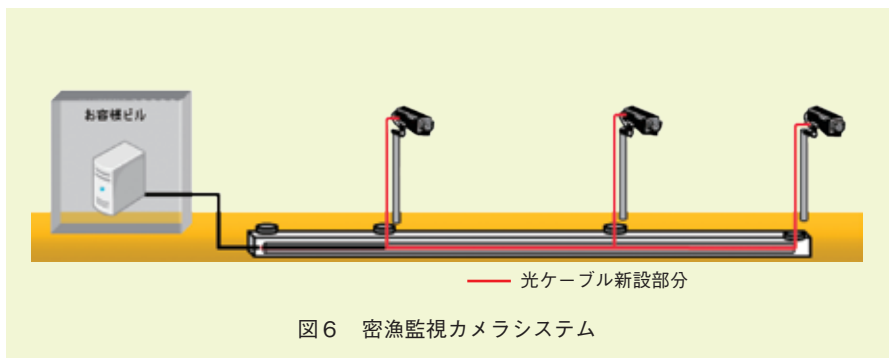


図6 密漁監視カメラシステム

るFAXの更改にあたっては、事前作業としてファームウェアの書換えおよび組合員情報・短縮ダイヤル等の設定・登録作業を行い、宅配便によりFAX本体を事前送付して、工事当日は新旧FAXの取替えと試験の実施という簡単な手順を取り効率的に更改工事を完了させました（図7）。

更改工事完了後は、保守契約締結により予備機への取替えを含めた故障対

応を実施しています。

(3) 新千歳空港情報インフラ・電話交換設備工事

平成21～23年の3年間（当時は第2営業部門）にわたり、北海道の空の玄関「新千歳空港国際線ターミナルビル新築」に伴い、国内線ターミナルビルおよび連絡施設等空港内の全エリアに光ケーブル、メタル（電話）ケーブ

ル、UTPケーブルを敷設しました（写真2・3）。

工事現場は全て他業種との競合であり、さらに空港という特異性から時間に制約があり、特に滑走路区間（光ケーブルを地下施設内へ敷設）を横断する際には、空港が夜間閉鎖してからの作業開始となりますが計画通りに進捗できず、再度の日程調整が頻繁に生じました。

さらに、東北地方を襲った東日本大震災時には「震災地区を最優先」とのことで光ケーブル・メタルケーブル・UTPケーブルとも入荷不足状態となり、一時工事を継続すること自体が困難に陥り、最悪の事態に窮しましたが「四方八方手を尽くし」何とか調達することができ無事工事完遂につながりました。

竣工後には、空港の安全・円滑なサービスの向上を図る情報インフラ・電話交換設備工事を実施し、技術力と誠意ある対応が評価され、NTT東日本・北海道支店様から感謝状をいただくことができました。



写真2 地下の光ケーブル敷設準備模様

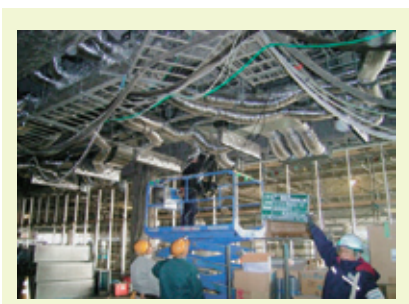


写真3 ビル内の光ケーブル敷設模様

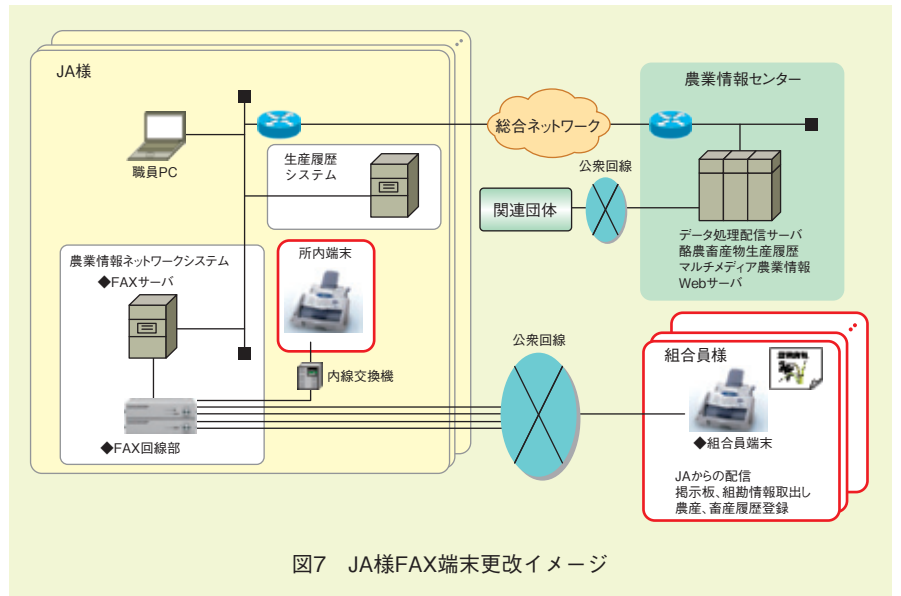


図7 JA様FAX端末更改イメージ

3-4 NCC設備構築工事

従来、旧ネットワーク部で実施していた、NCCの所内系通信設備工事の設計～施工までをICT部で実施します。

最近のスマートフォンの拡大によるネットワークのトラフィック増加に対応するため、北海道内各市町村のNTTビルにおける、NCCの所内系通信設備の設置（写真4）および更改工事、旧設備の撤去工事が増加傾向にあります。

4.おわりに

ICT部は、特約店業務、ホームネットワーク系工事（現場調査、開通支援を含む）、さらにはNCCの設備構築と幅広く実施していますが、エリアが広大で移動時間がかかるほか、首都圏などと比較すると少ない業務量という悪条件の中での業務は効率が悪く、収支的には厳しい状況にあります。

しかし、NTT様の光基盤も完成し、

今後は光基盤を活用するためのホームネットワーク等の拡大が見込まれることから、本業務を通して技術者層の拡大を図り、業務の効率化と需要拡大に迅速に対応可能な体制の構築が急務と考えています。

また、震災を契機に、電力エネルギーの効率的利用を図るスマートグリッド・スマートハウスへのICT活用も具体化されてきていることから、ホームネットワーク工事に積極的に取り組み、最先端のICT社会の構築に貢献していきたいと考えています。



写真4 NTTビルに設置したNCCの通信機器